

## 7 超自然的知識

### 7-7 火

#### 7-7-1 火の神

コタンの人全員で行う秋のカムイノミ *kamuynomi* の時に各自の家の火の神に上げるイナウを火にくべ新しいものにとり替えた。

[屈斜路 日川キヨ氏]

自分は身体が弱かったから父がアペウチカムイ *ape uci kamuy* (火の神) をお願いして、それからチセコロカムイ *cise kor kamuy* (家の守り神) をお願いして、身体が丈夫になるようにとカムイノミ *kamuynomi* (神への祈り) する。

[屈斜路 日川キヨ氏]

### 7-9 家の神

家の守り神のイナウ *inaw* (木弊) をプアル *puar* (神窓) の側の左側、北西隅の壁の上部(人の背の高さより少し高い位置) にしばりつける。家の守り神は、チセ コロ カムイ イナウ *cise kor kamuy inaw* と言い、男神である。イナウの形は、普通のイナウと同じだ。長さが一尺くらい。カムイノミ *kamuynomi* (神への祈り) の時にパスイ *pasuy* (奉酒箸) で酒をキケ *kike* (削り掛け) に垂らしていた。

[屈斜路 日川キヨ氏]

家の北西隅壁にチセコロカムイ *cise kor kamuy* のイナウ *inaw* (木弊) があつた。秋のカムイノミ *kamuynomi* (神への祈り) のとき、オンネ チセ *onne cise* (コタンの大きな家) のヌサ *nusa* (祭壇) に納めた。

[屈斜路 日川キヨ氏]

身体の弱い子のために火の神とチセコロカムイ *cise kor kamuy* (家の守り神) に、身体が丈夫になるようにとカムイノミ *kamuynomi* (神への祈り) してお願いする。

[屈斜路 日川キヨ氏]

家の神に上げるイナウも秋のカムイノミ *kamuynomi* (神への祭り) のときにオンネ チセ *onne cise* (コタンの大きな家) のヌサ *nusa* (祭壇) の近くに納めた (イワツテ *iwatte*)。

[屈斜路 日川キヨ氏]

## 7-12 その他

### 7-12-3 道具・器物の神

使い古した道具などは、オンネチセ *onne cise* (コタンの大きな家) のヌサ *nusa* (祭壇) (釧路編9-4参照) の近くの本の根元 (ネキ) に置く。これをオスラ *osura* (捨てる) という。古いシンドコや古い臼 (ニス *nisu*) を納める。村でそこ1ヶ所が捨てる場所なので、たくさんたまって邪魔になるようだったらカムイノミ *kamuynomi* (神への祈り) して焼く。道具などには、すべて神様の心が入っている。たとえば、臼は、シト *sito* (団子) など人間の食べ物を作るから魂が入っている。ピリカ カムイ *pirka kamuy* (良い神様) だから、イルシカ *iruska* (怒る) しないように、ていねいに送らなければならない。決まった場所で送る。そこでおしっこ (小便) などしたりできないものだ。

[屈斜路 日川キヨ氏]

### 7-12-4 神への祈り

オンネ チセ *onne cise* には、ヌサ *nusa* があり、そこで1年に1回、カムイノミ *kamuynomi* (神への祈り) を9月か10月頃やった。イナウの神に物をあげた。山の神、川の神が祭つてあつた。各自の家の火の神に上げるイナウはそのときに火にくべ新しいものに替えた (釧路編7-7-1参照)。また、家の神に上げるイナウもそのときにヌサの近くに納めた (イワツテ *iwatte*) (釧路編7-9参照)。水汲み場の水の神 (ワクカウシカムイ *wakka us kamuy*) のイナウも新しいイナウに取り替える (釧路編9-4参照)。

[屈斜路 日川キヨ氏]